

1975年に創刊された探偵小説専門誌『幻影城』は2025年、創刊50年を迎えました。編集長の島崎博が江戸川乱歩の評論集からタイトルを借り、権田萬治、紀田順一郎らの協力のもと、社会派推理小説全盛の時代に謎解き本格探偵小説とロマンの復興を目指したリトルマガジンです。同時開催の久生十蘭展と関係するところでは『幻影城』創刊号、第2号に久生十蘭訳「ジゴマ」が分載され、島崎博は「久生十蘭著作年表」をまとめています（1977年、現代教養文庫『無月物語』）。

横溝正史大ブームと並行した4年半ほどの短い期間でしたが『幻影城』は戦前の『新青年』、戦後の『宝石』とともに日本の探偵小説に大きな役割を果たしました。埋もれていた作品・作家の発掘紹介、研究評論、そして泡坂妻夫、栗本薫、連城三紀彦、田中芳樹、竹本健治ら次世代の新人を世に送り出すことにもなったのです。挿絵や装丁にも力を入れ、山野辺進、渡辺東、花輪和一、村上芳正、楢喜八、池田拓らのアートワークも忘れ難いものでした。小樽文学館では楢喜八、泡坂妻夫、連城三紀彦、村上芳正らの展示を行ってきましたが、創刊から半世紀を越えて、改めて探偵小説専門誌『幻影城』の全貌と足跡を振り返りたいと思います。



島崎博



幻影城創刊号 1975年



幻影城終刊号 1979年

2026年

6月27日（土）— 8月30日（日）

【開館時間】9時30分～17時（最終入館16時30分）

【休館日】月曜日（7/20を除く）、7/21(火)・22(水)、8/12(水)

【入館料】一般 300 (240) 円

高校生・市内70歳以上 150 (120) 円

障がい者・中学生以下 無 料

* () 内は20名以上の団体料金

市立小樽文学館

〒047-0031 小樽市色内1丁目9番5号 tel.fax. 0134-32-2388

【主催】市立小樽文学館【特別協力】本多正一、沢田安史【後援】小樽文学会

探偵小説専門誌『幻影城』展

GENEIJYO



公式ホームページ



公式 X (旧 Twitter)